

令和2年5月28日

まちづくり委員会資料

陳情の審査

陳情第44号 日本医科大学武蔵小杉病院跡地への超高層マンション
建設計画を豪雨や台風による浸水対策が完了するまで
凍結することを求める陳情

資料1 小杉町1・2丁目地区（日本医科大学）のまちづくりについて

まちづくり局

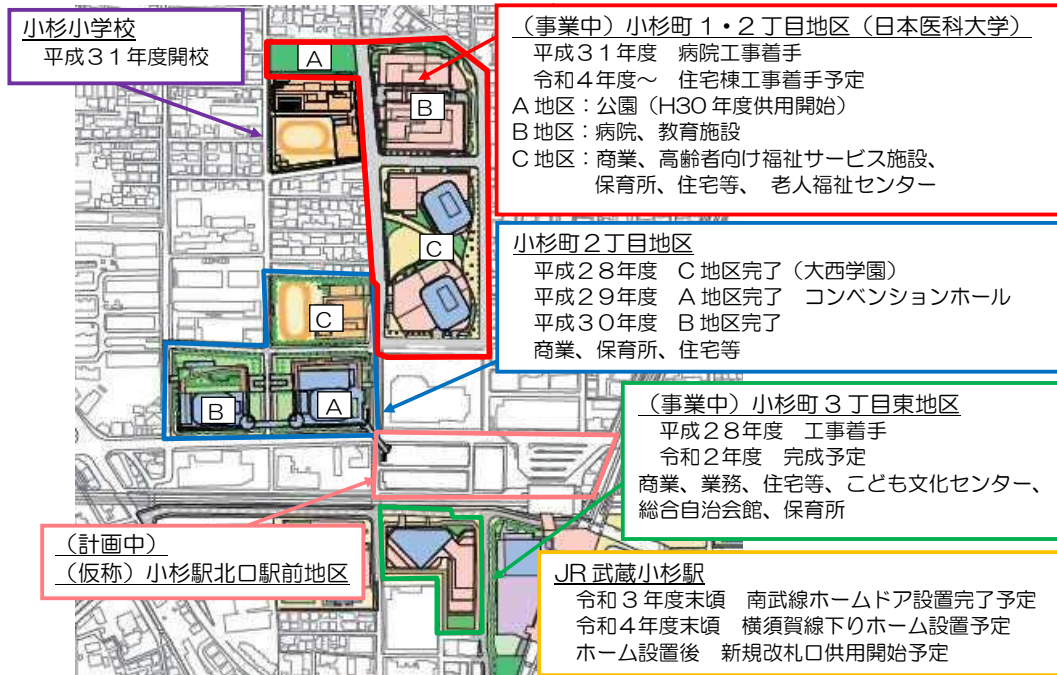
1 これまでの経過と今後の予定について

(1) 小杉駅周辺地区のまちづくりについて

- ・小杉駅周辺地区については、本市の広域拠点として、「都市計画マスタープラン小杉駅周辺まちづくり推進地域構想」に基づき、駅を中心とした多様な都市機能がコンパクトに集積した、魅力ある歩いて暮らせるまちづくりをめざしている。
- ・大規模な土地利用転換の機会等を捉え、地区計画等を活用した計画的なまちづくりを誘導することにより、道路、駅前広場、駅等都市基盤の整備改善、商業、業務、都市型住宅等様々な都市機能の集積と併せ、消防署、市民館、図書館の再整備やコンベンションホールの新設等、公共公益施設の再編に取り組んでいる。

(2) 小杉町1・2丁目地区(日本医科大学)について

- ・医療機能の高度化や、高齢者福祉、子育て支援、健康増進、生活利便及び都市型居住機能等の集積を図るとともに、道路、公園、広場等の都市基盤整備による安心・安全な歩行者空間や快適で賑わいのある都市空間を形成し、広域拠点にふさわしい都市機能の充実や防災性の向上等を図ることを目的とし事業を推進している。



2 小杉町1・2丁目地区における排水に関する協議について

- ・再開発によるマンション等建設時には、開発事業者が都市計画法に基づき下水道管理者と協議し、当該事業の計画人口を踏まえた下水の排水量と、接続する管きょ能力の確認を行っている。
- ・浸水被害の軽減を図るため、開発事業者が雨水流出抑制施設技術指針に基づき、適切に雨水流出抑制施設を設置することとしている。

3 小杉駅周辺における浸水対策について

- ・近年、浸水リスクが高まっていることを受け、小杉駅周辺を含む丸子その1排水区を重点化地区に位置付け、時間雨量58mm(10年確率降雨)にも対応できるようグレードアップを図るとともに、時間雨量92mm(計画当時の既往最大降雨)に対しても床上浸水が発生しないことを目標に丸子雨水幹線等の整備を行い、平成29年4月に供用が開始されている。
- ・令和元年東日本台風により発生した浸水に対し、短期対策としては、排水樋管ゲートの操作手順の見直しや排水樋管ゲートの改良、排水ポンプ車の導入、観測機器の設置等、今夏の台風シーズンまでに効果が発揮できる取組が進められている。また、中長期対策としては、ポンプの設置等による排水機能の向上や、貯留施設の設置による流出量の抑制等、ハード対策の具体化に向けた検討や、自助・共助を促すソフト対策等、効果的な方策の具体化に向けた検討を今年度より行い、同様な事態においても被害を最小化できるよう取組を着実に進めることとされている。

4 今後のスケジュールについて

○小杉町1・2丁目地区について

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
B地区	病院	工事	★新病院開院予定(令和3年秋頃)			
	教育施設				工事	
C地区	共同住宅等		既存病院解体工事	工事		

○浸水対策について

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
短期対策の実施	→					
内水ハザードマップの作成	→					

※中長期対策については、令和2年度より対策手法の検討を行っている。

5 陳情要旨に対する本市の見解

小杉駅周辺を含む丸子その1排水区では、浸水対策として時間雨量92mmに対し床上浸水が生じないように、丸子雨水幹線等が整備された。また、令和元年東日本台風と同様の事象に対する短期対策の効果としては、シミュレーションを行った結果、小杉町1・2丁目地区において床上浸水相当の被害が生じないことが確認された。

建築物における電気設備の浸水対策については、国のガイドラインの動向等を踏まえ、開発事業者に対し、適切に指導を行っていく。

小杉駅周辺地区については、地区計画等を活用し、都市基盤の整備改善、都市機能の集積、公共公益施設の再編に取り組んできている。

今後も、こうした考え方にに基づき、都市の活力や防災性の向上等による持続可能なまちづくりを推進するため、地区計画等のエリアを中心に広域拠点としてふさわしいまちづくりの誘導を進めて行くものである。